

平成28年第4回大分市公共下水道事業経営評価委員会 会議要旨

日 時：平成28年10月28日（金）14時00分～15時30分

場 所：大分市議会棟3階 第5委員会室

出席者：委 員 相浦 洋志、豊田 和成、村松 政幸、小野 ひさえ、岩崎 美紀
須藤 里美（計6名）

事務局 下水道部長 新井 修司、下水道部参事 伊藤 憲亮、下水道部次長
衛藤 亥太見

次長兼下水道経営企画課長 佐藤 敏明、参事補 宮森 靖展、参事補 本多 隆司、
参事補 甲斐 政治、主査 船石 文哉、主査 小野 勝己

下水道営業課長 平田 佳行、参事補 手嶋 純宏

下水道建設課長 姫野 和長、参事補 板井 志郎

下水道施設課長 佐藤 博、参事補 穴見 晋

（計15名）

議事

議事に先立ち、会議の公開・非公開の協議が行われました。今回の議題の中に「下水道使用料の改定に関する意見（案）」が含まれていることから、公開することにより会議の円滑な審議等が損なわれるおそれがあると判断されたため、会議は非公開で行われました。

（1）下水道使用料の改定に関する意見（案）について

委員からの意見は特になく、原案どおり「下水道使用料の改定に関する意見」が提出されました。

（2）平成27年度大分市公共下水道事業会計決算について

事務局から配布資料に基づいて説明を行いました。

（3）中期経営計画の各目標・指標の達成状況について

事務局から配布資料に基づいて説明を行いました。

○主な意見

【委 員】 「使用料の収納率の向上」が評価「C」未達成で、毎回「C」だと思いますが、これをせめて「B」に上げることは不可能なのでしょうか。職員の徴収業務は実際どのように行われていますか。

【事務局】 評価の方法ですが、目標値が未収金額となっており、平成27年度の目標は前年度よりも2千2百万円未収金を減らすということでした。職員の取り組みといたしましては、夜間の電話催告や、休日には訪問により納付や分納相談などを行っております。回数も前年度は36日でしたが27年度は45日行っており、職員は努力をしております。収納率では26年度が96.28%、27年度が96.58%ということで0.3ポイント向上しています。しかしながら、公共ますへの接続個数

が毎年伸びますので調定額も増え、もしも前年度と同じ収納率であれば未収金の額自体は増えることになり、なかなかその伸びに収納額が追いつけないという状況になります。未収金の減額は26年度が1千百万円、27年度が1千6百万円ということで上がってはきておりますが、目標には達していないという状況です。

【委員】 他の会合でも話しますが、きちんと納付する人と払わないで済む人がいることは不公平な状況だと思います。下水道は水道と違って水を止めたりはできませんから何か他の強制的な方法はないのかと。

【事務局】 昨年12月に取扱要綱を改正し、悪質な滞納者については下水道においても滞納処分を行うようにしました。27年度は1件の預金差押を行いました。今後についても悪質な滞納者には滞納処分を課していきたいと考えています。

【委員】 決算書4ページ、26ページの出資金とはどういったものですか。

【事務局】 資本的収支の基準内繰入金です。

【委員】 財務状況の説明で22億円とあったものとの違いは。

【事務局】 そちらは収益的収支の基準内繰入金です。

【委員】 滞納処分が1件あったということですが、金額はいくらでしたか。

【事務局】 金額は2千円程度の少額でしたが、何度伺っても連絡が取れないということで預金差押に至ったものです。

【委員】 未収金の何割くらいなのかと思ったのですが、収納率の向上が毎回未達成なので、こうすれば収納率が上がるという設定に無理があるのではと思います。さらなる取り組みの強化と書いていますが、その中身は何なのかと思った時に、滞納処分がどれ位のインパクトがあったのかと思ってお尋ねしました。未収金の額を減らすという目標設定がそもそも無理だったということですね。収納率が何%になれば達成する数値なのか。

【事務局】 何%ということではなく、前年の未収金より2千万円削減するという目標設定です。収納率自体は伸びているのですが目標削減額には達していないという状況です。収納率は100%に近づけるように努力してまいります。

【委員】 私が残念に思うことは、そうした頑張りがここで評価されていないということです。活動の中身としてはA評価であるのに、数値として出ていないことについて懸念しています。

【委員】 それに関して、収納率100%にするためにその分の経費がかかってくるとすれば、収益より費用が上回ってしまえば意味がないと。利用者の負担を減らすために収支をよくすることが大事であるという観点からすれば、もう少し現実的な目標を設定した方がよいのかなと思います。

【事務局】 補足説明ですが、今年度は収納率が昨年より0.1ポイント上がっています。当初、収納率が上がってくれば前年度に対する未収金が減り、目標である2,200万円を達成できるということで設定をしました。0.1ポイントで1,600万円の効果額ですので、これが0.2～0.3ポイントの収納率向上が図れれば目標は十分達成できるものと考えています。

収納につきましては、下水道部が直接徴収する分と、水道局に徴収委託をしている分が76%以上、他に富士見が丘団地の徴収分が一部ございます。水道局委託分

の滞納分については水道局が対応していますが、さらに厳しく対応していただくことで大きく改善が図れますので、水道局にお願いをしていきます。

滞納処分ですが、現在法的に手続きを行っているのは、下水道の直接徴収分ですが、現年度分の滞納額は大きくなく、水道局委託分の改善が今後の経営改善に大きくつながるものと考えています。先日、滞納対策の強化ということで水道局と協議を行っており、今後も続けて参りますので、来年度にはその改善状況についてご報告できるものと考えております。

【委 員】 未収納者の中には、支払い能力のない方もいると思うのですが、それについての対策は何かありますか。

【事務局】 直接徴収分については、電話、文書等の催告をして、何度行っても応答がない場合は、預金等資産調査を行なって資産があれば滞納処分を行うことになります。水道局分については、停水措置がありますので水道局が対応しております。それでも納付していただけない場合は、水道局委託分を下水道に引き上げて法的措置ができないかというところは、現在検討しているところでございます。

【委 員】 その場合、資産がなければどうなるのですか。

【事務局】 基本的には受益者負担の原則で使ったものは払っていただかないといけませんが、生活困窮の状態にある方については、分納相談等も行っていますが、場合によっては福祉の窓口を紹介するなどのこともやっていく必要があろうかと考えます。

【委 員】 目標値で収益的収支を黒字化とありますが、27年度では5,500万円の赤字は当期純損益だと思いますが、決算の状況では収益的収支が11,200万円の黒字となっていますが、これについては。

【事務局】 決算時に税抜処理をしますが、その結果が5,500万円の赤字であり、11,200万円は税込みの収支です。

【委 員】 税抜きの収益的収支を黒字化ということは、当期純利益を上げるということですね、分かりました。

【委 員】 この資料は市民に対してはどこで発表しますか。

【事務局】 ホームページ上で公表します。次期中期経営計画での目標値の表現は検討したいと考えます。

【委 員】 こうした経理のことについて、議会で委員さんから質問などありますか。

【事務局】 建設常任委員会で細かな議論をしていただいております。いろいろな質問が出ますが、執行部としてはそれにきちんと答えていくことになります。